

令和6年度 「森の巨人たち百選」仲間川の サキシマスオウノキ調査報告書



調査年月日：令和6年5月30日

九州森林管理局 計画保全部

西表森林生態系保全センター

「森の巨人たち百選」仲間川のサキシマスオウノキについて

1 はじめに

九州から南西へ約 1,000 km (図 1) の洋上に位置する西表島は、28,927ha の面積を有し、その約 9 割は亜熱帯の自然林で覆われ、島の面積の約 8 割を国有林が占めている。

気候は、温湿な亜熱帯気候に属し、年間を通じて降水量が豊富で大小無数の河川が形成され、広大なマングローブ林 (写真 1) を含んでおり、希少野生動植物の宝庫となっている。

また、貴重な自然は国内外から注目されており、令和 3(2021)年 7 月には、国内で 5 番目となる世界自然遺産「奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島」に登録された。

この西表島南東部を流れる仲間川中流域の国有林に生育しているサキシマスオウノキは、平成 12 (2000) 年 4 月に「森の巨人たち百選」に選定され、平成 13 (2001) 年 4 月には竹富町が主催する「西表島巨樹・巨木保全協議会」(以下、保全協議会という。) が設立され、必要な保全対策が講じられている。



【図 1 西表島の位置】



【写真 1 仲間川のマングローブ林】

2 生育地の概況

生育地は、仲間川上流右岸の南風見 (はえみ) 国有林 173 林班い小班 (図 2) で、サキシマスオウノキは川岸から約 40m 入ったところに生育している。

当該地域は、世界自然遺産登録地、西表島森林生態系保護地域保存地区、史跡名勝天然記念物、西表石垣国立公園第 1 種特別地域、鳥獣保護区特別保護地区、水源涵養保安林、保健保安林に指定されている。

サキシマスオウノキは小面積の群落を形成している中に生育しており、その他の植生としては、サガリバナ、クロヨナ等が生育している。



【図 2 サキシマスオウノキの位置】

3 保全経緯

平成 17（2005）年度に開催された「保全協議会」の総会において、「近年の台風等の影響でサキシマスオウノキ(写真 2)

の枝が折損しており樹勢調査を行いたい」との提案があり、琉球大学熱帯生物圏研究センターの馬場繁幸教授（当時）及び西表森林環境保全ふれあいセンター（現在は西表森林生態系保全センター）が「保全協議会」からの依頼を受けて樹勢調査を実施している。

調査の結果、サキシマスオウノキに着生しているアコウの除去と、その後の樹勢のモニタリングを行う必要があることを「保全協議会」へ報告し、平成 18（2006）年 5 月から現在まで当センターが生育状況及び周辺の林内状況などの調査を毎年実施している。



【写真 2 仲間川のサキシマスオウノキ】

4 モニタリング調査の内容

サキシマスオウノキを囲むようにコドラート（図 3）を設置し、以下の項目についてモニタリング調査を実施した。

(1) 生育状況の変化

サキシマスオウノキの樹高、幹周りを測定し樹勢の変化を観測した。

(2) 周囲の光環境の変化

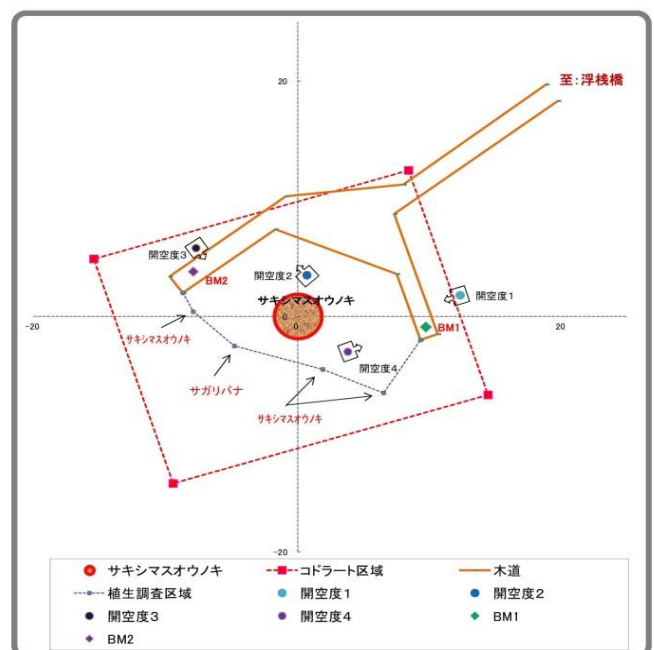
周囲に設けた 4 点（開空度 1～4）において、上空の樹冠状況を撮影し、開空度を算出して光環境の変化を観測した。

(3) 枝張りの変化

サキシマスオウノキの枝張りの状況を測定し、その変化を調査した。

(4) 林床植生及び着生植物の変化

植生調査区域内に生育している林床植生（胸高直径の測定が困難な個体は全て「林床植生」とした）を樹種別、樹高別に調査すると共に、着生植物については目視による観測を実施した。



【図 3 調査位置図】

5 調査結果

(1) 生育状況の変化

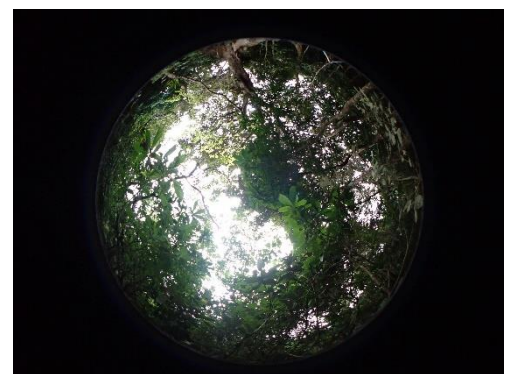
サキシマスオウノキの樹高は 23.9m、板根形成箇所上端部の幹回りは 377 cm（写真 3）で、これまで同様に形状に大きな変化は見られなかった。また、令和 5（2023）年度には、6 月に台風 2 号、9 月に台風 6 号が襲来したものの大きな被害はなく、本体には樹形、樹勢等に大きな変化等は確認されていない。



【写真 3 幹周り計測】

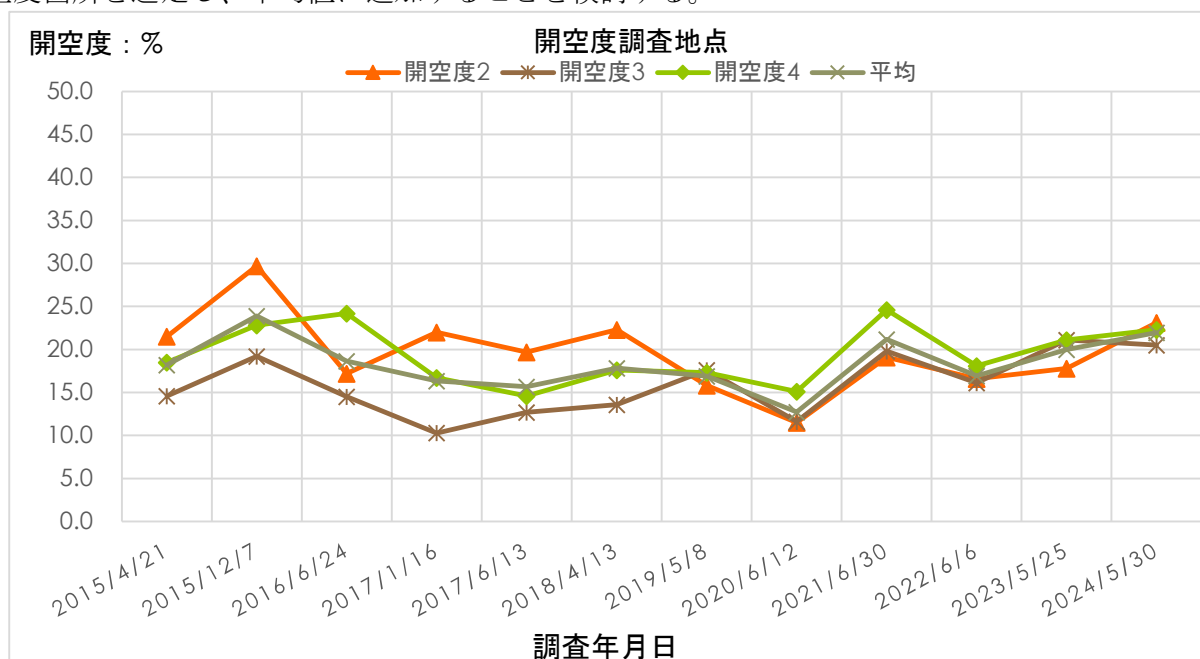
(2) 周囲の光環境（開空度）の変化

サキシマスオウノキ周囲における過去 10 年間の開空度の推移はグラフ 1 のとおりで、平成 27（2015）年 8 月の大型台風 13 号の襲来により枝葉の消失が発生し値が上昇している。その後は樹幹もうっ閉し落ち着いてきたが、調査当日の天候が晴れていたことが影響し、本調査においては前年度より数値が上昇した（写真 4、グラフ 1）。



【写真 4 開空度2測定画像】

なお、測定点の開空度 1 は、平成 20（2008）年 11 月調査時点からオオハマボウなどの枝葉が平成 18（2006）年 9 月の台風 13 号の影響により垂下し、開空度の測定が出来ない状態となったことから過去の数値も含め平均値データとしては採用していないため、次年度以降の調査においては新規開空度箇所を選定し、平均値に追加することを検討する。

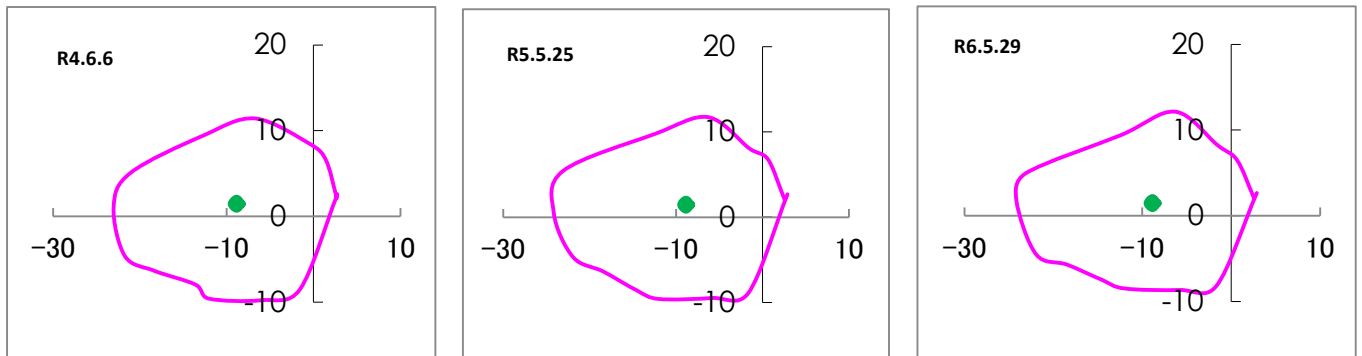


【グラフ 1 サキシマスオウノキ周辺の光環境の変化】

(3) 枝張りの変化

枝張りの変化は、令和4(2022)年6月から令和6(2024)年5月までの3年間の樹冠投影図を比較し、変化状況を示した(図4)。

令和5年度には2個の大型台風が襲来し、調査当日のサキシマスオウノキに被害は見られなかったものの、令和6年7月24日に襲来した台風3号通過後に現地を確認した際、根本直径14cm程度の枝折れが確認され、落下時に根株に当たったと思われる傷が見られたため、今後本体への影響を詳しく観察していく。



【図4 枝張りの変化】

(4) 林床植生及び着生植物の変化

林床植生は、サキシマスオウノキ、クロヨナ、サガリバナ、アダン、モクタチバナ等の12種類を確認した。(写真5)

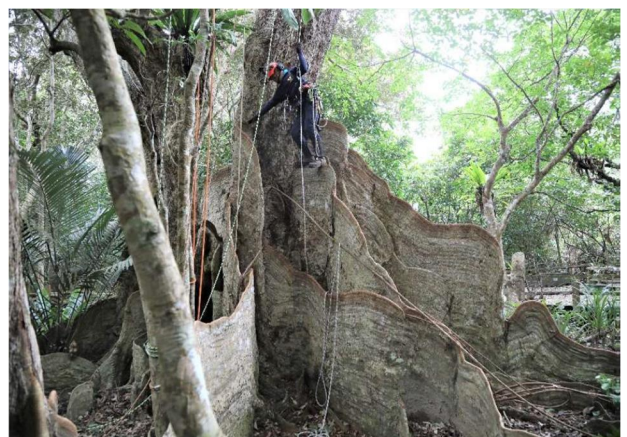
着生植物は、オオタニワタリが確認された。また前回報告書にて着床を確認されていたアコウ(写真6)については、令和6年2月に保全措置として「保全協議会」によりアコウの除去が実施され(写真7)、アコウにより腐食が進んでいた箇所切除、アコウの除去、気根に絡まっていたオオタニワタリの除去が行われた。



【写真5 林床植生調査】



【写真6 地表に達した着生アコウの気根(赤矢印)】



【写真7 除去作業の様子】

令和 2（2020）年度に確認されたタカサゴシロアリの蟻巣箇所については、昨年同様に地表より 40 cmの樹幹（SW 方向）に蟻巣（写真 8）が確認されたが、蟻巣近辺の蟻道及びタカサゴシロアリの姿も確認されず、蟻巣自体は衰退したと思われる。



【写真 8 蟻巣の現況】

(5) 施設等の状況

サキシマスオウノキを見学する観光客等入林者は数多く訪れる。現地にはサキシマスオウノキの保護等を目的に、平成 10（1998）年度に木製の展望デッキが設置されている。しかし、近年の激しい気象環境や材料の経年劣化等により、木材の腐朽が著しく進行していることが確認されている。

浮棧橋から展望デッキに向かう連絡道（約 15m）は腐朽侵食が激しく、手摺りにおいては機能しておらず接合部分が腐れ落ちていることが確認できる（写真 9, 10）。



【写真 9 腐朽が著しい連絡道】



【写真 10 連絡道の手摺り
（機能していない）】



【写真 11 台風被害により壊れた手
摺り等 (BM1 付近)】



【写真 12 台風被害により壊れた
手摺り等 (BM2 付近)】

また、令和 4（2022）年 9 月に襲来した台風 11・12 号により展望デッキの手摺り等に被害が確認された 2 箇所については変化が見られなかった。（写真 11, 12）。

6 まとめ

令和5（2023）年の6月と9月に台風が襲来したものの、樹形等に大きな変化は認められなかった。

サキシマスオウノキに着生しているアコウについては、令和6年2月に保全措置として「保全協議会」において除去が実施され、着生しているアコウを除去したことにより、サキシマスオウノキの生長を妨げるものがなくなったため、今後の生長が期待できる。

タカサゴシロアリについては、昨年と同様に蟻巣が確認されたが蟻道及びシロアリは確認することが出来ず、営巣自体は衰退したと考えられるが、サキシマスオウノキ周辺を含めて、今後も継続的に観察していくことが必要である。

施設については、木製デッキ及び連絡道の腐朽等が進んでおり、今後の台風次第では半壊する恐れもある。西表島は世界自然遺産登録など世界的に注目されており、今後は入林者数に制限がかけられるが、巨木の保全・保護と入林者の安全確保の両面から、補修等を含めて早急に検討することが必要である。

最後に、当センターとしては、今後もモニタリングを継続して実施し、更に異常が確認された場合には「保全協議会」に報告し保全対策を図っていくこととする。

令和6年12月11日

西表森林生態系保全センター

